あなたのための幸せ屋＋

ヒトリネコ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
あなたのための幸せ屋＋

【Ｎコード】
Ｎ１２５６Ｄ

【作者名】
ヒトリネコ

【あらすじ】
ここは“あなたのための幸せ屋”望む人がいれば、やってまいります。あなたに幸せを、差し上げるために・・・。不治の病で、あまり命も長くない老人が、病院から抜け出し、お店を見つけ、最後に幸せを得る物語です。これは“あなたのための幸せ屋”の、続編です。

（前書き）

前回の作品の続編を作っちゃいました。
正直、自信がありません。
前回の作品を楽しんでいただけた方は、多分今回も楽しんでいただけると思います。

～1日目～

ワシは今、入院中じゃ・・・。
毎日が寝てばかりの、つまらん生活を送っておる・・・。
今日は、こっそり病院を抜け出してみた・・・。

外は気持ちが良いのう。
風も、太陽の光も、空も、最高じゃ。
ワシは、車椅子に座り、散歩しておった。
病院にはいたが、身近のことは寝てばかりでわからん。珍しい店ばかりじゃ。
そこに、変わった店を見つけた。
「～あなたのための幸せ屋～
あなたの幸せお売りいたします。」

ワシは、驚いた。
最近はこんな店も出ておるのか。
でも、本当に幸せをもらえれば、どれだけ嬉しいことだか・・・。
とりあえず、店に入ってみるかの・・・。

カランカラン・・・。
“いらっしゃいませ”
これはまた、可愛らしい女の子が働いておるわ。
大変じゃのう・・・。
「こんにちは。幸せを売ってもらえるかの？」
すると、彼女はワシの顔をじぃっと見つめだした。
“はい、あなたはそれほどの良いことを、息子さまにそそいできたようですね”

よくわからんが、どうやら買えるようじゃ。
「では、それを頂こう。」
“かしこまりました”
彼女がそう言うと、またワシの顔をじぃっと見つめだしてきおった。
「どうかしたかの？」
ワシは無視をされた。思ったより、無愛想な子じゃのう・・・。
しばらくしてから、普通の姿勢に正してお辞儀をした。
“ありがとうございました”
「いえいえ。こちらこそ。」
おままごとだったのか・・・。幸せを簡単にもらえるわけが無かろう。
まぁ・・・それは、それで楽しかったから、良かろう。
「さようなら。」
ワシがお辞儀すると、彼女も最後に気を使ってくれた。
“お大事に・・・”
「ありがとう。」

～2日目～

ワシは、今日も病院で寝ていた。
いつもどおり暇じゃのう・・・。
せめて・・・最後に息子に会わせてほしい・・・。
昨日のことを思い出すと、涙が止まらなかった。
すると・・・。

ガチャリ・・・。
病室のドアが、開く音がした。
ワシは涙を拭き、窓の方を見た。
そして、嫉妬した・・・。
うらやましいのう・・・。息子は仕事で面会に来れないのはわかっ

ておる・・・。でも・・・。
布団をギュッと強く握って、歯をかみ締めておると、その手をそっと何かが包み込んだ。
ワシは振り向いた・・・目の前にはいるはずのない、たくましくなった息子が笑いかけておった・・・。
「久しぶりだね。父さん。」
驚きのあまり、声が出なかった。が、息を整えてから、声をかけた。
「そ、そうじゃのう・・・。」
突然の出来事に、笑うしかなかったが、息子もしっかりこっちを見て、笑っておった。
「仕事はどうしたんじゃ？」
そう言うと、あまり言いたくなさそうにしおった。
何があったんじゃろうか・・・。
「今日から、しばらく休暇をとったんだ。父さんのためにね。」
怒られると思ったじゃろうな。まぁ、その通りだがな。
「何をやっておるんじゃ！仕事を休むなんて・・・。」
なぜか、ワシは途中で口を閉ざしてしまった。
最後まで叱ることが、なぜかできなかった。
昨日のことを、思い出してしまったからじゃ。
しょうがないから、説教はやめて、日常会話を楽しむことにした。
「まぁ、別にかまわん。わざわざすまないな。ワシの為に。」
「いいんだよ。父さんの体のことも心配だし。」
「それと、どうじゃ？最近、仕事は？」
「ボチボチってとこかな。父さんこそどう？お体のほうは。」
その質問には、なかなか答えるわけにはいかんかったが、しょうがなく答えた。
「ワシは・・・ワシの命は、そう長くないんじゃよ・・・。」
息子は、驚いてから黙り込んでしまった。
「そ・・・そうなんだ・・・。あ・・・もう面接時間が終わりそうだから、近くの小さなホテルに泊まったから・・・。」

「そうか・・・。」
元気が無さそうにワシが返事をすると、息子は笑って、明るく励ましてくれた。
「また明日来るから。いろいろ持ってくるよ。果物とか、せんべいとか・・・いろいろね。じゃあ、また明日。」
「おう。楽しみにしておるよ。」
息子は、病室の部屋を静かに出て行った。
ワシは今日が一番幸せじゃった。
もしかしたら・・・あのお店の子のおかげかの？
嬉しさのあまり、心の中で冗談を言ってしまった。
ワシは・・・明日が楽しみになってきた。

～3日目～

今日は、少し早く起きてしまった。
また、息子が面会に来てくれるはずじゃ。
楽しみでしょうがない。はやく来ないかのう。
ワシは今、心の中では子供のようになっておった。

そして、しばらく待っていると・・・。
ハッ・・・また寝てしまっていた。
だが、今ので少々時間がつぶせたはずじゃ。
今は何時じゃ・・・？
ワシがきょろきょろしておると、誰かが病室のドアを、ガチャリと開けた。
「おはよう。父さん。」
息子が部屋に入ってきた。
ワシの顔は、自然と笑顔にあふれていた。
が、ちょっと疲れたせいか、頭がクラッとし、倒れそうになった。
「だ、大丈夫！父さん？」

軽くうなずき、自動販売機でお茶を買ってくるように頼んだ。
息子は返事をし、病室を出た。
しばらく、横になっておったが、そのうちフッと意識を失った・・・。

そのまま・・・手術が行われた。
全身麻酔をかけられている父さんが、ベッドに横たわり、慌しく手術室に運ばれていった。
僕にはその時・・・声をかけることしか、できなかった・・・。
手術中、僕はただただ、待っていた。父さんの手術の成功を願いながら・・・。
上のランプが消えると、中から先生が出てきた。
そして、結果が告げられた・・・。

～エピローグ～

あの日・・・父さんの病気は悪化し、手術を試みたが、治療しきることはできず、死んでしまった・・・。

最後に、僕は父さんに声をかけようと思い、顔の白いハンカチをどけた・・・。
すると、父さんの顔には、笑顔がうっすらと残っていた。
父さんは、最後まで幸せだったんだ。
僕は、父さんに始めて面会に行った時、正直、父さんのあそこまでの元気のよさは驚いた。
気難しい父さんが、あそこまで笑って・・・。
たぶん・・・病院に一人でいるのがさびしかったんだと思う。

僕は、父さんに声をかけた。
「父さん・・・。今まで、おつかれさまでした。そして、ありがと

うございました。僕を育ててくれて・・・いろいろ教えてくれて・・・叱ってくれて・・・そして遊んでくれて・・・ありがとうございました。僕は、しっかり仕事をがんばるので、安心して天国で見守ってください。」
そして、顔に白いハンカチをそっと乗せ、病室へ向かった。

僕は、病室にある父さんのものを、しぶしぶ片付けていた。
すると、僕宛の手紙が一通、見つかった。
父さんが書いた手紙だ。
「竜人(りゅうと)よ。元気にしておるか？ワシはな・・・本当のことを言うと、寂しいぞ。お前が元気にしておるか心配じゃ。だが、そうも言ってられんようなんじゃ。ワシの命もそう短くない。だが、お前はまだ命数尽きとらん。精一杯生きるんじゃ。会えれば、元気でな。城嶋(きじま)利光(としみつ)より」
僕は、手紙を読んでいるうちに、涙を流していた。
拭いても拭いても、流れてくる。
涙が止まらない・・・。
「グスッ・・・。と・・・父さん・・・。」
その場で、僕はしゃがみこんで、昨日の短い思い出に浸っていた。

ここは“あなたのための幸せ屋”
望む人がいれば、どこへでも行きます。
幸せを求める人がいれば、どこへでも行きます。
でも、それは生きることだけが幸せでしょうか？
幸せとは・・・生きているうちに、どれだけ楽しめるか・・・喜べるか・・・。
そういうことでは、ないでしょうか・・・。

――――――おしまい――――――

（後書き）

「何だよこれ・・・」って思った方、すいません。
「何かいいな・・・」って思った方、ありがとうございます。
でも、次作るのはもうちょっと違う作品にしようと思いますので、
今回はもうこれでおしまいということで・・・。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1256d/

あなたのための幸せ屋＋

2010年12月17日15時53分発行